

令和6年度第3回
朝霞市緑化推進会議議事録

令和6年12月19日

都市建設部 みどり公園課

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	第3回朝霞市緑化推進会議	
開催日時	令和6年12月19日（木） 午後2時00分から午後4時00分まで	
開催場所	朝霞市役所 別館5階 501会議室	
出席者及び欠席者の職・氏名	別紙のとおり	
議題	別紙のとおり	
会議資料	別紙のとおり	
会議録の作成方針	<input checked="" type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input checked="" type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 会長による確認	
傍聴者の数	0人	
その他の必要事項		

令和6年12月19日(木)
午後2時00分から
午後4時00分まで
市役所 別館5階 501会議室

1 開 会

2 議 題

- (1) 市民アンケート調査の結果について
- (2) 現行計画の事業の実績について
- (3) グリーンインフラの多面的効用に係わる分析評価(経過報告)について

3 伝達事項

- ・ワークショップ開催の予定

4 閉 会

出席委員(12人)

会	長	古 賀 健 一
副	会 長	堂 本 泰 章
委	員	鈴 木 勝 浩
委	員	鈴 木 香 織
委	員	大 橋 純
委	員	渡 辺 淳 史
委	員	藤 井 久美子
委	員	森 敏 夫
委	員	柴 野 昌 己
委	員	山 本 清 典
委	員	田 島 徳 広
委	員	大 貫 利 己

欠席委員（４人）

委	員		高 堀 亮太郎
委	員		増 田 ともみ
委	員		本 多 武
委	員		高 橋 隆

事務局（１０人）

事	務	局	都市建設部長	松 岡 里 奈
事	務	局	審議監兼都市建設部次長兼まちづくり推進課長	村 沢 敏 美
事	務	局	都市建設部次長兼開発建築課長	塩 味 基
事	務	局	みどり公園課長補佐	松 下 俊 一
事	務	局	みどり公園課みどり公園係長	鈴 木 正 樹
事	務	局	みどり公園課みどり公園係主査	宇 野 康 幸
事	務	局	みどり公園課みどり公園係主任	菊 地 理 浩
事	務	局	みどり公園課みどり公園係主事	伊 藤 勇 世
事	務	局	株式会社 地球スケッチ	山 下 氏
事	務	局	株式会社 地球スケッチ	粕 谷 氏

【配付資料】

- ・ 令和6年度 第3回朝霞市緑化推進会議 次第
- ・ 資料1 市民アンケート調査の結果
- ・ 資料2 現行計画の実績の整理
- ・ 資料3-1 グリーンインフラの多面的効用に係わる分析評価
- ・ 資料3-2 グリーンインフラの多面的効用に係わる分析評価（当日資料）
- ・ 資料4 朝霞市みどりの基本計画策定支援業務 工程表
- ・ 参考資料1 第2回朝霞市緑化推進会議の主な意見と対応方針
- ・ 参考資料2 第1回 生物多様性市民懇談会 議事録 要点記録
- ・ 参考資料3 第2回 生物多様性市民懇談会 要点記録（当日資料）
- ・ 参考資料4 朝霞市みどりの基本計画策定に向けたワークショップ開催のおしらせ「シンボルロードの魅力と課題から領地管理を考える」
- ・ ワークショップのお知らせ「新しい公園の使い方を一緒に考えよう！」～（仮称）宮戸二丁目公園～

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

◎1 開会

○事務局・鈴木みどり公園課みどり公園係長

それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第3回朝霞市緑化推進会議を開催いたします。

本日は、年末の大変お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本日の審議会の出席委員でございますが、総数16人中12人でございますので、朝霞市緑化推進条例施行規則第12条に定める、開催定足数を満たしていることを御報告申し上げます。

なお、高堀委員、増田委員、本多委員、高橋委員におかれましては、本日、所用のため欠席の御連絡を事前に頂いておりますので、御報告させていただきます。

また、事務局席に「みどりの基本計画」の策定支援業務を受注された株式会社地球スケッチの皆様にも参加いただいておりますので御承知おきください。

それでは、これからの議事進行につきましては、古賀会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

○古賀会長

皆さん、こんにちは。

（挨拶等）

それでは、次第に従いまして会議を進めたいと思います。

この会議は、原則公開の立場をとっておりますので、本日、この会議の傍聴を希望される方がいらっしゃる際は、傍聴者の入室を許可させていただきますので、よろしくお願いたします。

事務局の方、傍聴者の確認をお願いたします。

○事務局・伊藤みどり公園課みどり公園係主事

ただいまの傍聴希望者は、0人です。

○古賀会長

はい、分かりました。

それでは、会議の途中でも傍聴者の入室につきましては、その都度、皆さんの了解を得ることなく、事務局が傍聴者を入室させますので御了承ください。

続きまして、議題の審議に先立ちまして、本日の配付資料の確認を事務局からお願いいたします。

○事務局・鈴木みどり公園課みどり公園係長

それでは本日の会議資料について、確認させていただきます。

事前配付した資料につきましては、7点ございます。1点目が、本日の次第。2点目が、資料1「市民アンケート調査の結果について」。ここで、資料の訂正をお願いします。資料の40頁1番上、問9となっていますが問10の間違いですので、訂正をお願いします。3点目が資料2「現行計画の実績の整理」、4点目が資料3-1「グリーンインフラの多面的効用に係る分析評価」。本日見やすいようにA3版も配布しております。5点目が資料4「朝霞市みどりの基本計画策定支援業務工程表」、6点目が参考資料1「第2回朝霞市緑化推進会議の主な意見と対応方針」、7点目が参考資料2「第1回生物多様性市民懇談会」、「議事録（要点記録）」。

本日、机上に修正版を配付しております。また、本日机上に追加配付したのものとして、1点目が資料3-2「グリーンインフラの多面的効用に係る分析評価」。併せて、補足資料の1から3も配付しております。2点目が参考資料3「第2回生物多様性市民懇談会（要点記録）」。

3点目が、参考資料4「ワークショップ開催のお知らせ」、こちらA4のカラー刷りのものになります。

そのほか、「委員名簿」「緑化推進会議傍聴要領」「質問票」、あと追加で、その他で新聞記事の「私たちの自然を守ろうコンクール」というA3版の新聞記事1枚と、「新しい公園の使い方を一緒に考えよう！～（仮称）宮戸二丁目公園～」というちらしも合わせて配付しておりますので、御確認をお願いいたします。

資料は、おそろいでしょうか。資料の確認は、以上になります。

◎2 議題 （1）市民アンケート調査の結果について

○古賀会長

資料の方、よろしいでしょうか。

それでは、次第に従いまして、会議を進めたいと思います。

次第の2番目、本日の議題です。「（1）市民アンケート調査の結果について」と「（2）現行計画の実績の整理について」です。

いずれの課題も、みどりの基本計画の改定に向けて、計画の全体の課題や見直しの視点、みどりの将来像と目標、施策の方針などについて、今後、議論していくための重要な内容となりますので、皆様と活発な意見交換ができればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

始めに、議題（1）「市民アンケート調査の結果について」です。

資料1については、事務局から説明をお願いします。

なお、参考資料1についても、併せて説明をしていただければと思います。

宇野主査。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

それでは、議題（１）市民アンケート調査の結果について、説明いたします。

参考資料の１を見ていただければと思うのですが、これは第２回朝霞市緑化推進会議で頂きました主な意見に対しまして、それに対する方針を要約して書いてございます。

、１ページ目の市民アンケートについて様々な意見を頂いたものにつきましては、右側の「対応方針等」を踏まえて、アンケートの方を実施させていただいたということになりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、資料１を御覧ください。

資料の１ページ、「１ アンケート調査の概要」についてですが、「１－１ 目的」につきましては、記載したとおりの内容で実施しているものでございます。

次に「１－２ 配布回収方法」につきましては、市内に在住する１３歳以上の市民３，０００人を対象として実施いたしました。その他の内容は、記載したとおりでございます。

「１－３ 回収数」でございますが、合計で９４５人から回答を頂きまして、全体の回答率は、３１．５％でございます。そのうちWebでの回答については、２２％ございました。

次に、１－４につきましては、「設問項目」を記載しております。

続きまして、２ページから６ページは、アンケート調査の要約した内容を記載してございますが、７ページ以降の「集計結果」のところで説明いたしますので、説明は割愛させていただきます。

続きまして、７ページを御覧ください。

まず、「３ 集計結果」「３－１ 回答者の属性」でございますが、一番上の黒枠の中に書いてございます「回答者の年代は、５０代（１８．２％）が最も多く、次いで６０代（１７．９％）、４０代（１５．６％）となっています。」「職業は、会社員・団体職員（３０．３％）が最も多く、次いで無職（１７．８％）、専業主婦・主夫（１４．５％）となっています。」。

以下は、黒枠の中を確認していただければと思います。

また、８ページになりますが、一番上の黒枠の部分でございます。

「回答者の居住地を地域別にみると、南部地域（３８．２％）が最も多く、次いで東部地域（２０．８％）、北部地域（１９．８％）となっています。」その次、「町丁目別の回答者数は、本町１丁目（４７人）が最も多く、次いで本町２丁目（４０人）、根岸台７丁目（３２人）、三原１丁目（２６人）となっています。」。

次に、９ページを御覧ください。

ここからは、設問の回答に代わります。

「問1 朝霞市の「みどり」に対するあなたの満足度についてお答えください。」の結果でございますが、緑の枠の部分になりますが、「朝霞市のみどりに対する満足度の評価の平均をみると、

「a. 朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。」が一番高く(0.29)、次いで「b. お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している。」が2番目に高い値(0.19)となりました。

あとは、枠の中を見て確認していただければと思います。

続きまして、10ページから22ページまでは、回答者の属性によるクロス集計を掛けた結果を載せておまして、10ページから13ページが「年代別」、14ページから16ページは「地域別」、17ページから19ページが「居住年数別」、20ページから22ページが「世帯構成別」ということで、それぞれクロス集計の結果をまとめておまして、特徴をそれぞれ緑の枠内に記載してございます。全部読みますと時間が掛かりますので、説明の方はここで控えさせていただきます。

続きまして、23ページを御覧ください。

「問2 市内のどんな場所で、みどり・自然が豊か、魅力的であると感じますか。」の問いの結果でございますが、「最も多くの方がみどり・自然が豊か、魅力的であると感じているのは、黒目川(331人)でした。」「次いで、青葉台公園(116人)・シンボルロード(115人)・朝霞の森(106人)・市役所周辺(48人)・中央公園(43人)・公園通り(29人)・米軍基地跡(15人)が上位に挙げられており、市役所から朝霞の森の一带を魅力的であると記載している人が多い結果となりました。」。

これは、先ほどの回答結果でも本町の地域の方が多く回答が寄せられておりますので、そういった面と、シンボルロード周辺を市の方で積極的に整備したということもあろうかと思っております。

続きまして、24ページを御覧ください。

「問3 将来にわたって残しておきたいと思うみどりがありましたらご記入ください。」の問いの結果ですが、「最も多く記載されたのは朝霞の森(158人)であり、次いで黒目川(154人)が多く挙げられました。」「地区公園の城山公園(85人)、青葉台公園(55人)、朝霞中央公園(13人)や近隣公園の滝の根公園(27人)といった広い公園も多くの方が記入しています。」「また、国有地である、朝霞の森(158人)、シンボルロード(42人)、米軍基地跡地(34人)についても多くの方が残しておきたいと思うみどりに挙げています。」。

続きまして、25ページを御覧ください。

「問4 あなたはどのくらいの頻度で、市内の公園を利用していますか。」の問いの結果でございます

ますが、「市内公園の平均利用回数は30.9回/年となりました。」「地域別では、南部地域が35.9回と平均利用回数が最も多く、一方内間木地域(13.5回)が最も少ない回数となりました。」「年代別集計では、30歳代が51.1回と平均利用回数が最も多く、10歳代(8.5回)が最も少ない回数となりました。」「世帯構成別集計では、18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが小学校入学前である世帯の平均利用回数が73.8回と最も多く、単身者である世帯(19回)が最も少ない回数となっている。」「全体を通してみると、18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが小学校入学前である世帯が、73.8回と際立って多い利用回数となっています。」という状況でございました。

続きまして、26ページを御覧ください。

こちら「問5」でございしますが、お住まいの近くの公園の名称を記入していただいて、その施設について、項目ごとに評価していただいた結果を載せてございます。こちらについては、様々な結果が出ておりますが、例として、「a.ベンチなどの休憩施設が充実している。」という設問の評価は、「シンボルロード(0.75)」が最も高い評価となっております。一方、「宮戸立出児童遊園地(-0.67)」が最も低い評価となっております。」。

あとは、緑の枠の中に記載したとおりでございます。

続きまして、27ページは回答のあった公園について、それぞれの項目の集計結果をまとめておりますので、あとで見ていただければと思います。

次に、28ページから30ページにかけて、全体と地域別の比較ができるよう、集計結果を記載しております。御確認いただければと思います。

次に31ページを御覧ください。「問6 みどり豊かなまちづくりを推進するために、必要だとと思われる次の施策のうち、とくに重要だと思われるものを3つ以内で選んで番号に○をつけてください。」という選択制の調査結果でございしますが、緑枠の中になりますけども、「みどり豊かなまちづくりを推進するための重要な施策に関する問では、「道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する。」が351件で最も多く、次いで「だれもが気軽に利用できるように小規模でも身近な公園や緑地を充実させる。(292件)」、「健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの遊歩道を充実させる。(242件)」となりました。」。

32ページを御覧ください。

「年代別」「世帯構成別」「地域別」ごとに集計した結果を載せておりますので、特徴的なものを見ていただければなと思います。

続きまして、33ページを御覧ください。

こちら「問7」になります。まず、「7-1」といたしまして、参加経験や取り組んでいる活動が

あればの調査結果ですが、「緑化活動・緑地保全活動への参加経験に関する問では、「生け垣や花壇など自宅の庭の緑化」が22.9%で最も多く、次いで「道路などの清掃活動」が21.2%となりました。」「また、今後取り組みたい活動では、「市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産」が9.3%と最も多く、次いで「緑化のための募金活動(6.9%)」、「公園愛護会など公園の花植えや清掃活動への参加(6.2%)」、「地域の団体で木や花を育てる(6.2%)」となりました。」。

次の34ページには、同じ質問に対して、「年代別」「世帯構成別」「地域別」に項目ごとに集計した結果をまとめてございます。

続きまして、35ページを御覧ください

問7-1で、緑化活動等に参加経験が全て「なし」と答えた方へのその理由を数えた問いでございますが、それにつきましては、「市民による緑化活動や緑地保全活動に参加していない理由に関する問では、「参加する時間がない」が20.5%で最も多い理由となりました。」。

続きまして、36ページを御覧ください。

こちら「問8 市内の公園や緑地等で行われているイベントやまつりに参加したり、足を運んだりしたことはありますか。」についての調査結果でございますが、「市内の公園緑地で行われるイベントやまつりへの参加経験に関する問では、「彩夏祭」が64.8%で最も多く、次いで「黒目川花まつり(46.3%)」、「身近な公園で開催される納涼祭やイベント(27.3%)」、「あさか冬のあかりテラス(25.6%)」、「ASAKA STREET TERRACE(23.3%)」となりました。」。

なお、37ページから38ページには、同じ質問で、「年代別」「世帯構成別」「地域別」に項目ごとに集計結果をまとめておりますので、御確認いただければと思います。

また、37ページの「年代別」で特に特徴的なものは、「公園緑地におけるイベントへの参加経験があるとする方の年代構成をみると、「彩夏祭」や「黒目川花まつり」などの参加経験が多いイベントでは、概ね各年代から参加経験があることがわかります。」「また、子育て世代では、「朝霞の森プレーパーク」や「じゃがいも堀り等の農業収穫体験」、「移動式プレーパーク」などの体験型イベントへの参加が全体に比べて多い傾向にあります。」。

続きまして、39ページを御覧ください。

「問9 自然環境が有する多様な機能を活用して、社会における様々な課題解決に活用しようとするまちづくりの手法「グリーンインフラ」が注目されています。自然環境が有する機能のうち、あなたが知っているものをすべて選んで番号に○をつけてください。」という部分につきまして、「全体」と「年代別」「世帯構成別」、「地域別」に集計しております。

結果では、「自然環境が有する多様な機能の認知度に関する問では、「CO2の吸収源となり地球温暖化を緩和する機能」が59.5%で最も多く、次いで「日射の緩和、蒸散作用により都市の気温の上昇を緩和する機能（47.8%）」、「生き物の生息空間となり身近な生き物や地域固有の生き物を守る機能（42.0%）」、「水害の軽減など自然災害による被害を軽減する機能（40.8%）」の順となりました。「年代別では、30歳代の認知度が最も高く、60歳代、40歳代、20歳代と続きます。」

続きまして、40ページを御覧ください。

「問10」でございますが、今、総額1,000円を持っていると仮定し、みどりを守るための仮定の支払い意思を聞いた結果を「全体」と「年代別」「世帯構成別」「地域別」に集計しております。

みどりを守るための仮定の支払い意思に関する問いでは、「CO2の吸収源となり地球温暖化を緩和するみどり」に対する支払いが158円で最も高く、次いで「水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり」が135円、日射等が次いでいるというような結果でございます。

最後になりますが、41ページから45ページにかけまして、アンケートの最後に、みどりのまちづくりについての御意見・御要望について、自由記載欄を設けてございまして様々な意見を頂いたものを項目ごとに整理してございまして、いろいろな意見を頂いております。

このような貴重な御意見、御要望を頂きましたので、しっかりと課題等を整理し、みどりの将来像や目標の設定、施策の方針等に生かしてまいりたいと考えております。

駆け足になりましたが、資料1の説明は以上でございます。

○古賀会長

参考資料1は、いいですか。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

一番最初に、ちょっと説明させていただきました。

○古賀会長

では、大丈夫ですね。分かりました。

ありがとうございます。

それでは、事務局から説明がありました。

議題「(1) 市民アンケート調査の結果について」、何か御意見や御質問があれば、挙手にてお願いいたします。

田島委員。

○田島委員

市民アンケート調査の結果に対する所感ということで、少し申し上げたいと思います。

まず、大変よく分析されているというふうに感じました。私自身も興味深く内容を読ませていただきましたが、その中で特に気になりました点を、注目しました。

まず、評価の平均として、「-1.0～1.0」というふうに記載されております。1.0というのは現実的にあり得ないと思いますが、その数値が0.3以上だったら良いとか、その基準はあるのでしょうかというのが1点。

2点目は、アンケート結果の要約が、2ページから6ページにされておりますけれども、それが実際のアンケート結果のどのページに該当するのか。例えば、2ページ目の「1) みどりの満足度について」は、9ページ参照というふうに御明示いただければ助かるなというふうに、読んでいて思いました。

3点目、子育て世代の皆様からのアンケート結果を、可能な限り重要視してほしいというふうに思います。

4点目、6ページの「ご意見ご要望について」と28ページの「全体と地域別の集計」の囲み内の一番下のところ、「全体を通してみると」から始まる部分ですね。それから、41ページの「みどりのまちづくりについてのご意見・ご要望」、この囲みの内容、いずれも大変貴重で肝要なことが書かれているというふうに思います。

最後に5点目ですけれども、17ページの「全体を通してみると、5年未満、5年以上10年未満が全ての項目で高い値となっており、長い居住年数の20年以上30年未満、30年以上で低い評価となっています。」。この点についてですが、なぜそういうふうな結果になったのか、明確な理由があれば教えてほしいというふうに思いました。

以上でございます。

○古賀会長

ありがとうございます。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

お答えします。まず、1から-1で1の部分はないのですけれども、中間の0が、要はどちらでもない、いわゆる純粋度はないのですけれども、0だったら良くもなく悪くもないというような感覚で捉えていただければいいのかなと思います。

次のアンケートの要約については、どのページから来ているのかというのを記載するように修正していきたいと考えております。要点の記載。私も実は今まとめていて、あった方がいいなと思いましたが、要は詳細の方のどのページから持ってきているという内容を追記したいと思います。

子育て世代の意見・要望というのは、本当これからすごく重要になってくると思います。皆さん

からそういう意見も頂いて、子育て世代ではなく若年層の意見も盛り込みたいということで、なかなかない13歳以上というアンケートをさせていただいたという思いもありますので、そこら辺につきましては今後の課題整理、施策の検討、将来の目標については、そういったものを意識しながら皆さんと議論していければと思います。

41ページ、本当にみどり、いろいろ貴重な意見を頂いておりますので、こちら先ほどと同じ答えになりますけども、これからみどりの基本計画の改定もありますので、こういった結果を踏まえて、皆様と様々な議論をしていければなと思います。

次が最後かな。17ページ。

○田島委員

17ページの囲みの一番下ですね。これの何か明確な理由とかあれば、教えてほしいなと思います。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

これでもって正しいというふうなことはなかなか難しいのですが、要は、朝霞のいいところを見て引越してきた方、お住まいになっている方というのが、やはりいらっしゃると思います。朝霞は、池袋から準急、急行で15分、ただそれだけではなくて、都市部でありながら豊かな自然が残っているというのは、様々なアンケートでいつも上位のところでございますので、朝霞は今も人口が増えているというような状況でございますので、年数が少ないの方が、そういう意識が強いのかなと。ただ、長く住んでいるのが低いというよりか、もう当たり前になっていて、朝霞のみどりの良さというのは昔からそうだからという部分もあるのかなと。そこだけは何とも。

○田島委員

住めば住むほど評価が下がっていくというのは、何か理由があるんじゃないかなとちょっと勘繰ったんですけども。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

長く住んでいる方は、やはり昔を知っていて、朝霞のみどりが残っていると言っても、様々な開発によって、朝志ヶ丘では大きな森だったところが大きなマンションになってしまったとか、様々な過去の経緯がありますので、やはりそういった近くで大規模開発等が行われますと、一つの大きな、子供たちが小さいときに遊んだなという思い出が一つなくなったりして、そういった部分では、そういった評価は、一つの思い出が共通の思い出で残るとそういったことで反映されてしまうのかなということは思います。

住んでいるのが短い方は、入ってきた時点のみどりのことがまず起点になっておりますので、そういった面では、長い間住んでいたの方が、減っていつてしまう状況を生で見えてきた部分もある

のかなというふうに捉えておりますが、ちょっと自分の主観的なものになりますが、その辺りで。

○田島委員

ありがとうございます。

○古賀会長

ほか、御意見ありますでしょうか。

大橋委員。

○大橋委員

アンケートがすごいいろいろ分析されて、御苦勞があったかなとは思いますが、今までに過去に同じようなアンケートというのは、やったことがあるのでしょうか。

というのは、今回これだけを見ていると比較対象がないので、正直、何が良いのか悪いのかというのがちょっと分かりづらいなというのがありまして、もし、過去にないのなら、今後このようなのは5年に1回とか3年に1回とか、やるつもりでいるのかとか、そういう予定があるのかなど。

あと、近隣、新座とか和光とかで、同じようなことが行われているかどうかというのは、分かりますでしょうか。

○古賀会長

宇野主査。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

このアンケートについて、そもそも議論するときには、やはり前回と同じ質問を設け比較するという話が合った。ただ、みどりの基本計画は、長期間の計画になるので、そもそも国の施策自体も大きく変わってきている中で、残すのは残す、あとは、これはちょっと今の時代にそぐわないのではないかという部分は、新しい設問に変えたりしておきますので、比較してできるものについては、そういったことも、課題とか抽出するときにまとめたものをお出しできればと思います。

近隣も恐らく、みどりの基本計画を策定するときには、庁内検討をやっていると思いますので、そういった情報も集めて、全く同じ質問をしているというところはないとは思いますが、似たような質問は必ず多分していると思いますので、そういったものを比較検討できるような材料を、今後用意してまいりたいと思っております。

あとは、今後のアンケートを直ちに今やる予定というのはありませんけれども、施策とか、この後、実施計画を作ってもらいますので、そういった中で、また皆さんと議論していければなと思いますけれども、すぐやる予定は今のところはないと。もしやった場合には、比較検討できるような形で、もちろん考えていきたいというふうには思っています。

以上です。

○大橋委員

もう一点、良いですか。

この回答率31.5%というのは、いろいろアンケートやと思うのですが、多い方なのか少ない方なのかという、その関心度はどうでしょうか。

○古賀会長

宇野主査。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

30%行けばいいのかなと思っています。ただ、思ったほどWebの回答率が伸びなかったというふうに思います。やはり、年齢自体ある程度、高齢という言い方はあれですけども、その方が回答率が高いというのは事実でありますので、ただ、実際には期限が過ぎた後も結構回答が来ている。ただ、やはり期限後になってしまうと入れられませんので、そういった部分を見ると、比較的、関心度は高かったのかなと思います。

○古賀会長

ありがとうございます。

○大橋委員

さっき、新座とか和光という話の質問の回答ありましたっけ。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

恐らく、みどりの基本計画を作るときに多分やっているはずなんです。そういったものを情報を仕入れて、皆さんにお配りするとか、何か比較検討できるようなものについては、今後の課題とか施策の検討の中で、何かお示しできればなというふうなところです。

○古賀会長

よろしいですか。

○大橋委員

はい。

○古賀会長

ありがとうございました。

ほか、何か御意見ありますでしょうか。

鈴木勝浩委員。

○鈴木（勝）委員

結構大変なアンケート調査、御苦労様でした。

拝見させていただいて、改めて皆さん市民の方は、黒目川を愛している。先々も残してほしいと

いう強い気持ちが現れているなというふうにすごく感じました。それがあることだけではなくて、イベントも含めて、よりやってほしいということで、うちの事務所周辺でも、井まつりがこれからありまして、いろいろ計画されているんだなということも、改めて認識した次第です。

そういった中で、例えばアンケートの結果、今単純集計ですけれども、これをクロス集計みたいなこともお考えになっているのかどうか。それぞれのアンケートのデータをミックスして、年齢層と新居住者がどういうものを好んでいるかとか、そういったクロス集計みたいなものも今後何かやる予定はあるのかどうか。それをやると、多分見えてくるところもあるかもしれない。

あと、41ページですけれども、ちょっと気になるところで、「みどりの管理」のところ、「河川敷の景観や草刈り等の管理を考えてほしい。」というのがあるのですが、管理を考えてほしいというのは、もっと水準を上げてほしいという趣旨なのか、どういう趣旨なのかちょっと気になったのですが、もし分かれば教えてください。

○古賀会長

宇野主査。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

クロス集計は今も実際やっておりますので、ちょっと説明を端折ってしまったので分かりづらかったのですが、一応、クロス集計が必要なものはクロス集計していて、先ほど少し説明したのですが、南部地域では比較のみどりが良いとか、みどりに対しては年代別も大体満遍なく、地域別だとかしていますので、ちょっとその辺は、私どもも今一度見直す必要があるのかなと思いますけれども、総合的には良いものができたと思っています。

あと、この自由意見に関しましては、そのままずばり載せていますので、そこがどこまでの管理かというまでは、ちょっと確認はできておりません。

○古賀会長

ありがとうございます。

ほか、何か御意見ありますでしょうか。

田島委員。

○田島委員

今回の市民アンケート調査の結果を受けての提言というか、要望というか、そういうのもこのタイミングで話してよろしいでしょうか。

○古賀会長

大丈夫です。

○田島委員

4点ございまして、まずアンケートの回答者へ、アンケート結果を要約した内容をフィードバックするとか、回答者に対するお礼の文章等があれば、今後、同様な活動につながるのではないかと
いうふうに思います。ちょっと御検討いただければと思います。

また、黒目川に対して、先ほど鈴木勝浩委員からもお話がありましたけれども、私自身もそうなの
ですが、黒目川に対する期待がアンケートでは非常に高いと感じました。他の自治体がなさって
おられるようなクラウドファンディングに似たような黒目川の一層の整備、例えば舗装、除草、街
灯設置、トイレの増設、ベンチの設置、桜の補植と季節の花を植える等、こういうことをされた
ら、更に朝霞市の魅力アップするのではないかとというふうに思っております。

3点目ですが、改めて黒目川ですけれども、黒目川の兩岸の歩道、それからマンション等による
提供公園や歩道の整備に関しましては、途上国のインフラ整備に一役買っている東京都杉並区の中
小企業のスペックというのですかね、「SPEC」、これを活用されたらいかがでしょうか。半世紀
前に日本で開発された技術で、カルシウムなどが入った粉末を土に混ぜて固め、道路や水道を造成
するということですがけれども、頑丈で低コストというふうに言われております。アスファルトでは
ありませんから温暖化対策にもなるというふうに言われております。

最後に、私は柳瀬川の近くを仕事でよく行きますけれども、柳瀬川と黒目川を比較しますと、そ
の整備状況には雲泥の差があるようにかねてから強く思っております。是非一度、近くです
で皆さんも御存じだと思っておりますが、柳瀬川の土手とかすごく綺麗な
ので御覧いただければというふうに
思います。

以上でございます。

○古賀会長

ありがとうございます。

宇野主査。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

アンケートの公表につきましては、今日、皆様から修正等を頂いて内容を精査した後に、基本的
にはホームページ等で公表という形で。アンケートをしていただいた方、本当に有り難いのですけ
れども、分からないんですね、記名方式ではないので、分からないということを御了承いただき
たいと思います。

それから、先ほどクラウドファンディングの話がございました。これは例えば整備とか管理とか
様々な、トイレの管理等もしているところもあって、朝霞市も予算を組むに当たって、やはりな
かなか一般財務が厳しい状況の中で、そういった民間の活力を活用していくというのは、市全体の方

針でおりますので、様々なものに対してそういった検討は必要なのかなとは思いますが。

それから、「SPEC」というのは、舗装剤か何かの会社ですかね。

○田島委員

私も新聞か何かで読んだのですが、そういう情報がありましたので、ちょっと検索していただければ。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

そうですね、先ほどもあった黒目川の歩道であるとか、トイレであるとか、議会でも毎回のよう
に質疑を受けているものでございます。舗装につきましては、歩きやすいという反面、生物多様性
の面から見るとどうなのかなという部分もありますので、そういったものは、この機会に皆さんと
一緒に議論をしていきたいなと思います。ただ舗装すればいいという話では、みどりの基本計画で
はならないのかなと思いますので、御理解いただければと思います。

あと、柳瀬川は、志木、いろは橋のところ、志木市で整備を行って新たな公園を造っています
ので、すごく上がったようなイメージがあるのですが、私、個人的には黒目川の方が勝っているよ
うなイメージが。要は、流れが緩いと言いますか、川が浅いと言いますか、近づきやすいと言いま
すか。ウォーキングするだけであれば、柳瀬川の上は確かに舗装されて綺麗になっていると思いま
すが、河川の良さというのは、いろいろな部分がありますので、県土整備事務所の鈴木委員も入っ
ておりますので、市民の方が、より求めてみどりの基本計画に合うようなものが計画していければ
いいのかなと思っておりますので、頂いた御意見を参考に、計画の方に落とし込んでいければな
と思っております。

以上です。

○古賀会長

ありがとうございます。

○田島委員

川というか、その評価というのは、個人によっていろいろ差があると思うのですが、私、前回も
お話しましたが、黒目川沿いをランニング、少し前にマラソンをやっておりまして走ってしました
けれども、もう草が生えてすれ違うこともできないぐらいの時期が結構あるんですよ。こちら辺に
ついて、柳瀬川はそういうことは一切というかほとんどありません。綺麗にいつもされています。
前回も、舗装については生物多様性とかいうお話がありましたけれども、それは私は両立できるの
ではないかと思うんですよね。夕方暗くなると、黒目川を散歩をされている人がいますけれども、
暗くて怖いんですよね。石ころがあるからつまずきやすいし、ちょっと市民の健康にもつながるこ
とですし、美観とか朝霞市の評価にもつながりますから、是非、その辺は知恵を絞って御検討いた

できればというふうに思います。

○古賀会長

ありがとうございます。

藤井委員。

○藤井委員

今の田島委員のお話を受けてでもいいですか。

川沿いの舗装について、前回もお話されていたかと思います。私も砂利というのが余り、がたがたしているところが、走ったり歩いたりする人にも危険はあるかなと思うんですけども、その間を取って土とかでも、それに近いようなものでもちょっと整備していただいた方がいいように思います。アスファルトで完全に固めるというのではなくて。歩く人にも、あと、地水の方でも安全なものが考えられるといいかなと思います。

あと、川沿いの雑草ですね。確かに、私も川沿いだけではなく道沿いも、やはり草が伸び続けているなというのは思いますね。黒目川の活動というのをやっているのですが、外来植物が同じものがやはり一斉にはびこって、それがちょっと抜いたぐらいでは、本当に草刈りも年に何回か自分たちでやるというときくらいでは全然追いつかないくらいにもう一面覆われているんですよ。そこをやはり、役所の方でなかなか予算がというのはあるのかもしれないのですが、もうちょっと一緒にやっていただける方向で考えていただきたいなと思います。

あと、アンケート結果について、本当に多彩ないろいろな内容を書いていただいて、良いアンケートだったなと思います。それと市民の皆さん、回答をした方たちも、すごくいろいろみどり、朝霞の自然に関心もあるし、あと、失われたものに対して本当にそういう気持ちがある方が多いんだなというのが感じられて、ただ、朝志ヶ丘の大きな森がなくなったということを今でもやはり書いてらっしゃる方がいて、それが、アンケートを今こうやってまとめていただいて、ここから何年か掛けて計画に反映させて、まちづくりに反映させるということだと思うんですが、その間にも朝志ヶ丘の森の残った部分も、また開発されることになっていますよね、今。結構、開発する側はすごく急ピッチでやっていっていると思うので、そうしたところを、市の方でも残されているところと民間の場所だというのは本当に多いと思うのですが、そうしたところが開発されていくときに、その周囲の自然というのを、まず、造成しますというところで話し合いをもたれたりというのができるといいかなというふうに思います。

それとつながってしまうのですが、宮戸の宅地開発されているところですね、今、宮戸の斜面林の向かい側の畑が、また宅地にされるということがもう決まっているんですよ。そちらに面した斜面林川の土地ですね、道沿いの木を伐採されるということを最近知りました。その場所は、宅地

の敷地ではないところだけでも、そこに並んでいる木を伐採するということになるというのは、そうしたことは、造成側、不動産側の要請なのではないかという、その点も伺いたいと思います。

○事務局・菊地みどり公園課みどり公園係主任

まず初めに、さっきおっしゃっていた開発につきましては、開発の際に事業者側と協議を重ねていき、基本的に3,000平方メートル以上の大きなところであれば、県の中の条例で緑地を残す形になりますし、そのほかにも機能樹木を残すような形の協議というのは、現在行っている状況になります。

また、先ほどの藤井委員が言われた宮戸の緑地、畑のところが開発されて住宅ができることによって、隣接している緑地の斜面林の木を伐採するという話だったのですが、そちらにつきましては、今度開発ができる宅地造成のところの敷地に、既に上空の方に枝がかなり入っていて、地主の方から越境している部分を切ってほしいというお話があったのが始まりです。その際に、あそこを管理されているあさか環境市民会議の方たちとも話をし、今後、ここで越境の部分を切ったとしてもまだまだ伸びる、また、かなり高木の部分、植えたばかりのものもあるのですが、高木な木が多いということで、今後、隣接している部分の近いところで倒木があった際に、住宅側に迷惑を掛けてしまうということで、ここ最近、あさか環境市民会議で尽力していただいているのが、実際に緑地とその周りに住む人たちの共存、共生ということを大事にしていこうという中で、宅地の際から少しバッファゾーンとして間を空けて、緑地をちょっとコンパクト化、中心に持って行き、周辺については、出て来るような木については少し減らしていこうということがありまして、今回造成するところにつきましては、家が建つ前に、一度あの辺を伐採をして、再度今後どのように管理していくかを考えようということで、今、伐採という話が挙がっているということになります。

以上になります。

○藤井委員

ありがとうございます。

○古賀会長

ありがとうございました。

ほか、よろしいでしょうか。

大貫委員。

○大貫委員

ちょっと幾つかあるのですけれども。

まず、みどりの管理のところで、やはり管理をもうちょっとグレードを上げてほしいみたいな話がありますが、片やボランティアもしたいということも書いてあって、ちょっと今日は、広報の担

当課はいらっしゃらないのですが、例えば荒川ですと、以前に年に1、2回ボランティアを募ってごみ拾いをしたりということがあったのですが、コロナ禍を境に、そういったものがなくなっているような感じがしますけれども、市の方でそういった活動がほかにもあったと思うのですが、そういった活動がなくなっているようなことがあるのかどうか、分かったら教えてほしいというのが1点。

あと、公園、道路、河川の管理をしている上で、予算というものがあるので、限られた予算の中でどう使っていくかという工夫があったとしても限界があると思うんですが、例えば公園とかに対しては、命名権を与えてどこかの企業に協賛をしてもらうというようなことは、可能なんですか。

以上です。

○古賀会長

宇野主査。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

ボランティアの活動というのは、ごみ拾いとかそういうのは今でもやっております。除草はやっていないイメージがあります。多分、ごみ拾いとかは次の施策の実績のところでもお話しますけれども、環境部門がやっています。

○大貫委員

市がやっているの。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

市が。ただ、県土整備事務所とも連携してやっていると思います。

○大貫委員

市民が、まちづくり運動とかですね、荒川の方とか。

○事務局・

多分、大貫委員は、国のことを。

○藤井委員

ボランティアで、ほかの団体がやっていると思うんですけども、荒川全域のごみ拾いイベントというのは、年1回朝霞市でも黒目川沿いでやっています。

○堂本副会長

「荒川クリーンエイド」という展開ですね。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

不法投棄とかそっちの関係が多い。ごみ関係ですよ。

○藤井委員

今のボランティアのものは、そうです。クリーンエイド。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

先ほど、クラウドファンディングのことも出ましたけれども、ネーミングライツも予算編成方針というのがあって、やはり、財政状況が厳しい中でそういうのも積極的にやるという交渉はできません。ただ、今、なかなか朝霞でネーミングライツはまだなくて、やはり魅力的な施設で集客ができないものというのは、なかなかネーミングライツをやっても来ないこともありますけど、ただ、新たに造る公園とか、今度、内間木でもそういった新たな公園の構想がありますので、そういった収益施設が、入るということであれば、民間が多分手を挙げるということがあると思うんですけど、基本的に関係費だけ掛かる部分にネーミングライツで公募をしても、なかなか難しいのかなと。要は、収益する建築物を建てられるとか、あと、一括した管理が、その事業者が請け負えるとかそういったものがないと難しいのかなと思いますけれども、自治体各自でそういうのをやっておりますので、朝霞の方も一生懸命そういったものは、推進したりとか、研究しながらやってみたいというふうに思います。

○大貫委員

限られた人が利用するような感じだと、企業的には魅力がないという感じなんですか。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

そういうことです。

○大貫委員

あと、先ほど言っていたボランティア活動に関しては、私が認知していないということは、市民の方も認知していない人がいるかもしれないので、広報活動とかを強化していただいた方がいいかなというふうに思います。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

昨日、生物多様性市民懇談会がありまして、本当に朝霞市内に様々なボランティア活動、みどりの保全とか推進をやっている方がいらっしゃるのですが、やはり高齢化という切実な話がありました。実は、昨日、藤井委員が学生を連れて来て市民懇談会も出ていただいて、若い方が来るとすごく活性化していいのかと思います。ただ、やはりその中でも、広報だとかそういったものの課題がというのは、市も話をしましたので、そういったものに力を入れていきたいというふうに思います。

○大貫委員

そうですね。

ちなみにという話なのですが、私も散歩をしながらごみを拾うときに、市に言ってごみ袋をもらったりします。よくしているんですよ。そういう支援を継続してできるんだったら、そういうこともありますよとちょっと言っていただくと、参加者も増えるのかなという感じがします。

○古賀会長

ありがとうございます。

ほか、よろしいでしょうか。

○堂本副会長

このアンケートを生かして、また、市民の方にワークショップとかあるんですかね。是非、テーマとしてやっていただきたいのは、朝霞の森とか黒目川って非常に残したいという思いが強い、でも何を残したいのかとか、黒目川の何に魅力を感じているのかって、結構、場合によっては相反することがあったりしますので、その辺は十分に議論をしてですね、合意形成を図っていただきたいなというふうには思います。この158人とか154人、一律ではないと思いますので。その辺の合意形成こそがすごく大事なポイントかなというふうに思っておりますけれど。

あと、維持管理に関して今もお話がありましたけれど、当然、残したいところ、整備をしたいところ、増えていくわけですが、予算は止まったままの中です。そうするとやはり、そこで市民とかボランティアの方々と連携をして、どこまで維持管理できるのかとか、どこまで対応できるのかということも、併せて市民の方とかと合意形成をしてその手法を作ってもらいたいと。

朝霞は、やはりほかと比べて都心に近いし、企業もありますから、もし企業の貢献というようなことで、先ほど言いましたネーミングライツとかではなくて、ネイチャーポジティブとか自然共生サイトとかいって、企業が、CO2削減とは別に生物多様性について企業としてどう貢献するかということが問われている中で、どこどこの企業は敷地ではないけれど、どこどこの朝霞のエリアの自然共生サイトをするぐらいの維持管理に取り組んでいますよと。それはそれですごく企業としての価値とか、本来の企業の取組にもつながっていくことになりますので、そういった切り口での、ネーミングライツではない形の、今の時代を見据えた何か仕掛けというのはあってもいいのかなというふうには聴いていて思いましたけれど。

○古賀会長

ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

それでは、資料1「市民アンケート調査の結果について」につきましては、今まで頂いた御意見で修正等あれば、修正内容を確認させていただきます。その際、私の方で確認させていただいて、

確認後、アンケートの調査結果を公表させていただくという形を取らせていただきたいと思います
が、よろしいでしょうか。

(はい、の声)

◎2 議題 (2) 現行計画の事業の実績について

続きまして、議題(2)「現行計画の事業の実績について」審議をしたいと思います。

資料2について、事務局から説明をお願いいたします。

菊地主任。

○事務局・菊地みどり公園課みどり公園係主任

資料2の「現行計画の実績の整理」について御覧ください。

こちらにつきましては、朝霞市の「みどりの基本計画」を平成28年3月に改定する際、みどりの将来像を実現するために、「(1) 緑と水辺を守る」、「(2) 花や緑を育ててつなぐ」、「(3) 公園の魅力高める」という三つのみどりの目標を設定しました。

このみどりの基本計画の三つの実効性ある推進を図るとともに、具体的な方向性を提示するための実施計画として、「花とみどりのまちづくり構想」というのを作っております。この「花とみどりのまちづくり構想」につきましては、この緑化推進会議で諮って作成をし、この構想の取組実績を毎年緑化推進会議の方で報告し、意見を頂いているような形になっております。

現行の「みどりの基本計画」では、「花とみどりのまちづくり構想」の第4期、これが平成28年から30年度、第5期が令和元年度から令和3年度、第6期が令和4年度から令和7年度の4年間、合計10年の3期に分けて取り組んでおります。

こちらの資料の1ページ目につきましては、先ほどの目標で掲げた、「(1) 緑と水辺を守る」に関わる内容を事業で取りまとめています。

「重点的取り組み」といたしましては、一つ目が、「【1】自然との共生に向けた理解の醸成」ということで、「落ち葉の利活用の検討」を行い、やはり落ち葉というのは非常に、市民の財産といたしますか、これも一つの自然と触れ合う機会となっております、落ち葉を持って帰ることができるようにしようということで、落ち葉プールというのを設けまして、そういった活動により、多くの市民の方が公園で落ちた落ち葉とかを持ち帰ったり、また、朝霞の森のお祭りで「落ち葉で遊ぼう」ということで、落ち葉プールというのを作って非常に子供たちにも大人気でした。

二つ目が、「【1】自然との共生に向けた理解の醸成」の中で「生物多様性等に関する市民意識の醸成」ということで、こちらにつきましては、主に、例えば生物多様性市民懇談会を毎年開いております、生物多様性市民懇談会で開いて良かったなと思うのが、やはり先ほど言ったとおり、市

民団体がいろいろと今高齢化している中で、担い手がないとなったときに、お互いがやはり困っていることを情報共有する場というのを市が作ることができて、それによってお互い助け合おうということでやっている部分もありますし、逆に、新しく川の団体に入った人が、そういう里山とかもやっているんだということで、そっちも参加しようということで、お互いにいろいろと新たな意識やそういうのが生まれて、どんどん参加する機会が増えているというのは、非常に良かったなと思っております。

次に、「【2】水辺環境保全の啓発」として、主に川のクリーン活動等を行っており、そのほかにも、「あさか環境かるたの作成」というのをしまして、より子供たちの方に環境問題について意識を持ってもらうために、こういったものを作りました。

次に、「【3】緑被率調査等の実施・分析を踏まえたみどりの基本計画の改定」ということで、こちらが、5年に1回緑被率調査を行っておりまして、現在、正にこれを基にした、みどり基本計画の改訂を皆さんと進めているところになっております。

次に、「【5】休耕期間の緑肥対策事業」、また「【6】農業体験の実施」ということですが、こちらにつきましては、やはり農地が減っていく、また、休耕地というのがありますので、そういった中で農家を支援する、また、そういう農業体験を通して一般の方が農業に触れ合う機会を実施するために「重点的取り組み」として入れております。

次のページを御覧ください。

こちらは、目標の二つ目「(2)花や緑を育ててつなぐ」についての事業を取りまとめております。

一つ目、「重点的取り組み」としましては、「【4】朝霞市みどりのまちづくり基金による緑化等の支援」ということで、こちらにつきましては、景観計画補助金制度の開始とともに、みどりのまちづくり基金を使用して、様々な景観に関する団体の補助をしております。

そのほかにも、都市緑化機構との協定を基に、寄付型自動販売機というのを設置しました。こちらにつきましては、自動販売機で一般の方が飲物を買うだけで、それが結果的にまちづくり基金の方の寄付金の方に入ってくるという仕組みでして、普段やっている、自動販売機で買うということが、結果的にこういったみどりのまちづくりの方に貢献できるといったようなものになっております。

次に、「【7】街路樹管理計画の策定等による公共空間における花や緑の適正管理」、こちらにつきましては、主なもの、例えば城山通り、あそこのイチョウ並木というのが非常にきれいだと思うんですけども、せん定方法について実際に、樹幹を大事にした場合はどうなのかといったことを実際に検討したり、そういう計画を作るのではないかとということで、街路樹育成方針について検討し

たりということを進めたりもしておりました。

次に、「【9】学校の壁面・屋上緑化及び校庭芝生化の維持管理事業」ということで、今、市内の小学校とかでは、屋上緑化や壁面緑化というのをやっております。そういった中で、子供たちが自然に触れ合う機会をより多くしようということで、こういったものの維持管理を続けております。

次のページを御覧ください。

みどりの目標の三つ目、「(3) 公園の魅力を高める」。こちら一つ目、「【8】基地跡地公園の整備・シンボルロードの管理（緑化重点地区の緑化推進）」になります。こちらにつきましては、皆さんも御存じのように、令和2年の2月22日にシンボルロードが開通いたしました。あそこにつきましては、非常にいろいろな多くの方が利用していて、また、今、様々なイベント等が増えております。こういった部分で、シンボルロードを使って今後も市内のにぎわいを醸成するとともに、非常に大きな自然もありますので、そういった部分でみどりに触れ合っていただければいいのかなと思っております。

次に、「【10】まぼりみなみ公園・まぼりひがし公園・(仮称) 宮戸二丁目公園の利用ルールづくり及び施設整備」、こちらにつきましては、まぼりみなみ公園・まぼりひがし公園が根岸台5丁目区画整理地内にできた公園になっております。また、(仮称) 宮戸二丁目公園につきましては、宮戸テニススクールの跡地に現在作っております、後で最後の方に言うのですが、こちらにつきましても、今年度ワークショップで、どのように公園を利用していこうかというのをやる予定となっております。

次に、「【11】みどり空間の魅力向上施策の検討」ということで、こちらにつきましては、例えば、みどりに皆さん出会っていることで、街中でベンチ等の設置を非常に取り組んでおりまして、駅や河川沿いといったところに多く設置しております。そのほかにも、公園とかに健康器具を設置することによって、公園で運動する機会を創生するという形もやっておりました。

次に、「【12】公園施設長寿命化計画に基づく施設の補修・更新及び計画の改訂」、こちらにつきましては、市内の公園や遊具というものを、長寿命化計画として何年にどのように改修していくかというのを計画として定め、順次、計画的に改修を行っております。ただし、一部、やはり遊具なので急きょ使えなくなるものもあります。そういうものも含めながら、計画的に更新を行っているという形になります。

次のページを御覧ください。

こちらは、以前も御説明をしているのですが、現在のみどりの目標達成状況の整理となっております。

一つ目、「①都市公園等の目標面積」。現行計画では、都市公園、公共施設緑地、都市公園等につ

いて、目標面積を定めておまして、現行計画における目標値と令和5年度末の現況値を比較すると、都市公園は目標値に達成しておりませんが、公共施設緑地については、目標値に達成しています。また、都市公園等については、僅かに届いていません。

朝霞市は、児童遊園、朝霞の森、黒目川などの都市公園以外の身近なレクリエーション空間が充実しており、都市公園に加え、都市公園以外のレクリエーション空間を合わせて、分布状況や機能の充足度を評価し、検討することが必要と考えております。

次に、「②みどりの目標面積」、こちらにつきましては、現行計画では、市街地面積、都市計画面積に対する緑被率を目標としております。令和5年度の緑被面積は、都市計画区域内で638.32ヘクタールで、緑被率は34.8%となっております。

現行計画における目標値と令和5年度の現況値を比較しますと、市街化区域における緑被率、都市計画区域における緑被率のいずれも目標に達成しておりません。また、本市のみどりは減少傾向にあり、現行計画における目標値の達成は現状困難であるというふうに考えております。

以上が、今までやってきた施策の部分の概要と現在のみどり基本計画の目標値に対する現況になります。これらを踏まえまして、アンケート結果と併せて、次回以降の中でいろいろと今後の課題とかを整理しながら、将来的な目標というのを設定していく必要があるというふうに考えております。

以上になります。

○古賀会長

ありがとうございます。

資料2について、事務局から説明がありました。

資料の内容について御不明な点や修正、御意見、御感想、御質問などありましたら、挙手にて御意見をお願いします。

○田島委員

ちょっと教えてもらっていいでしょうか。

1ページの下から2行目、「【5】休耕期間の緑肥対策事業」です。この右側に、「景観作物の種子配布」とありますが、これはどういうことですか。ちょっと私、よく分からないのですみません。

○事務局・菊地みどり公園課みどり公園係主任

こちらにつきましては、産業振興課の方でやられているものになっておまして、ちょっと種子については、毎年変わってくるものがあるので。作物ではなくてお花とか、そういう形の種を渡しているといったようなことだったと思います。

種類については、すみません。今把握ができていなくて申し訳ありません。

○ 委員

泥の飛散防止ではありませんでしたか。

○事務局・菊地みどり公園課みどり公園係主任

それは、一つとしてはあります。

○古賀会長

ありがとうございます。

ほか、御意見ありますでしょうか。

藤井委員。

○藤井委員

1 ページの「【2】水辺環境保全の啓発」の中の「荒川河川敷不法投棄物一斉撤去事業」のこれは、クリーンエイドの年1回のあれではない。これは、市で公募したりして行っているのでしょうか。参加者がいるというのは、これはどちらが行っている。

○古賀会長

鈴木係長。

○事務局・鈴木みどり公園課みどり公園係長

こちらは、荒川のクリーン協議会の方が主体となって実施しているもので、朝霞の場合は、荒川上流河川事務所で、河川の関係だと朝霞県土整備事務所、朝霞市、和光市、志木市が参加されて、いわゆるごみ拾いを実施する事業になっております。私は、以前環境推進課にいて何度かやらせていただいたのですが、河川敷でサッカークラブとか少年野球の子とかも参加して、一緒になってごみ拾いをして、普段使って練習しているところを清掃していただくような形の活動内容になっております。

以上です。

○藤井委員

ありがとうございます。

○古賀会長

ありがとうございます。

ほか、何か御意見ありますか。

大貫委員。

○大貫委員

最終的な分析のところ、未達という部分があったと思うのですがけれども、その何か分析結果、どうしてこうなったかというのはありましたっけ。最終的な実施状況、未達の部分が多少あるじゃ

ないですか。最後のところで。その理由みたいなものは、分析した結果、これを踏まえてどうするみたいな話は予算の関係なのか、何かその計画上何かできないことがあったのか、それはちょっと分析されると良かったかなと思うのですが。

○古賀会長

菊地主任。

○事務局・菊地みどり公園課みどり公園係主任

分析のことについては、今後の部分になるのですが、みどりの面積につきましては、やはり宅地開発が非常に大きいということから、畑の面積が減ったことにより生産緑地で守られているところでも相続等も重なりながら、みどりの目標面積は減っているものだと考えております。

公園等につきましては、また、この辺についてまとめ次第、次回等のところで御報告をさせていただきます。

以上です。

○古賀会長

宇野主査。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

公園の地域というのは、今のみどりの基本計画に明確に書いてあります。朝志ヶ丘地域だとか、あとレクリエーション、公園以外のレクリエーションをするための地域というのが書かれておりまして、今回お配りした宮戸地域には、また新たに公園の整備を、たまたまこれもできる。なかなかやはりまとまった敷地を取得するというのが、そういった候補地がなかなかないということと、やはり財政的な面もありますので、直ちに公園が目標値に近づくかというのは、基本的には難しい面があります。

あと、緑地につきましても。今、ご確認いただいたように、やはりその相続によって、どうしても土地を処分せざるを得ない状況がありますので、この辺のみどりの目標について、どうするかというのがやっぱり今後の課題、目標の中でしっかりと議論して、いたずらにみどりを引き継ぐというのは、多分現実的ではないので、それについては、難しいかなと思います。

以上です。

○古賀会長

ありがとうございます。

ほかは、ないでしょうか。よろしいですか。

それでは、質疑ないようですので、議題（２）「現行計画の事業の実績について」につきましては、今日の審議の議論を踏まえて、必要に応じて修正を事務局にお願いします。

◎2 議題 (3) グリーンインフラの多面的効用に係わる分析評価(経過報告)について

○古賀会長

続きまして「議題(3) グリーンインフラの多面的効用に係わる分析評価(経過報告)について」、資料3-1及び資料3-2について、説明をお願いします。

地球スケッチの山下さん。

○事務局・株式会社地球スケッチ・山下氏

プロジェクターの近くにて、説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、事前に配付いたしました資料3と、本日の当日資料としてお配りしました資料3-1と3-2、こちらを併せて説明させていただきます。

「グリーンインフラの多面的効用に係る分析の概要」です。こちらの方は、今この業務が始まって以来、分析を進めておまして、本日も経過報告という形で皆様に御報告させていただきます。

「目的」ですけれども、「緑地保全・都市緑化政策の検討における根拠を得るため市民政策を支え豊かにするみどりの多面的効用に係る解析を実施するもの」としております。

「みどりのはたらき」です。水害の軽減ですとか、CO₂の吸収、生き物の生息空間になったり、まちの美観を形成したり、子供の遊び場になったりと多様な働きがございます。

今回のグリーンインフラの解析ですけれども、こういった多様な機能ごとに分析を進めるということとしております。

「みどりの分析評価の構成」を示した概念図になります。朝霞市の緑被地データや空中写真、デジタルマップや自然環境の情報などを地図に集約するというものです。これが、「朝霞市グリーンインフラマップ」です。これらを用いて、湧水涵養域の分析や都市の気温上昇をどれだけ緩和できているのかとか、炭素の固定能力はどの程度なのか、生物多様性の保全はどうかといったような解析を進めるといった流れとなっておりまして、事前配布のものは、この都市の気温上昇、炭素固定、大気浄化、本日の資料のものは、湧水かん養域の予測と地域生態系の保全、景観資源、農業活動の場、この点についてお配りしております。

こちらが、「朝霞市グリーンインフラマップ」です。凡例がここに示されているように多数ありまして、例えば湿性の環境であれば、休耕湿田や冠水性草原、それから乾いた場所の樹林であれば落葉樹の二次林、クヌギ、コナラの林、幾つかこのような形で分類したものを市全域がカバーできるように地図化したものとなっております。

それでは、早速、一つ一つ説明してまいりたいと思います。

まず、当日資料に記載の1番目、「湧水涵養パフォーマンス(暫定版)」ということで、こちらの

方から説明させていただきます。

まず、目的ですけれども、本市の地下水の動きを再現して、湧水や河床から湧き出る地下水が、どここの浸透域に由来するのかを明らかにしまして、湧水や河川の平常時流量の保全において重要なエリアを抽出するということを目的としております。

2番目のモデル化については、大気をモデル化したり地形をモデル化する、陸の内容をモデル化したり、地質の構造をモデル化する、水利用はどうかといったような条件を全てモデル化しまして、三次元格子モデルを構築して解析していくものです。こちらの地下水シミュレーションは、協力会社である地圏環境テクノロジーの「ゲットフローズ」という解析ツールを使用しております。

「モデル化の方針」です。まず、格子モデルです。水平解像度が10メートルのグリッドになります。標高で-100メートルの地下までモデル化しています。総格子数、つまり格子の数は830万格子のモデルを作り計算をしております。

こちらに示すのが、朝霞市の台地の部分の断面図です。こちらに降った雨ですね、1番上層はローム層となっております、こちらが比較的透水性が高い層となっております。そちらの下の砂れき層中に水が、雨水がどんどんたまって帯水すると。この時に、この砂れき層が緩やかに傾斜していますので、低い方に流れる。このとき崖線に当たって湧出する部分がございます。それが、朝霞市で確認される湧水となっております。

一方で、関東の南の方は、長年の揚水、地下水の汲み上げによって、深いところの地下水が下がっておりますので、帯水したものの一部は、下の方に行っております。

今回のモデル化のポイントとしましては、この砂れき層中の水が湧出する部分と地下深くに浸透して行ってしまう、この二つをどのような配分で行くのかといったところをモデルとして再現するところが肝になっていると考えられます。

「解析領域」についてです。ここの黄色の範囲が朝霞市になります。こちらの赤い線のところが柳瀬川、こちらが白子川となっております。こちらが荒川です。地下水の解析にとって、区切りのいいところで領域を設定したという形です。広範囲でやればやるほど良いわけですが、その分、計算に時間が掛かったり、コストパフォーマンスが悪くなってしまうといったところです。

それから底面については、先ほど申しましたとおり、-100メートルまで格子を組んでいるという形です。

このモデルの計算の部分につきましては、本来御説明すべきなのですが、今回は割愛させていただきます。

結果です。こちらの図につきましては、降った雨がどのくらい浸み込むか、浸透量を示したもの

で、青から赤になるほど、たくさん浸透しているといったものになります。

こちらが、地中から表面に出てくる湧水となります。台地のへりのところに、黄色や赤の点々が表示されておりまして、そういったところと、現在朝霞市にある湧水の位置というのが大体重なってきた。一方で、こういった沖積面のところでもちらほらあるのですけれども、これは、モデル上の地下水位が少し高めに再現されてしまっているのではないかとということで、これは、現在まだ調整中のものでございます。本日の、この地下水のモデリングに関しましては、あくまで暫定版として、皆様にお示ししているものです。

次に、こちらが地下水位です。大体2メートルとか4メートルといったところが多いわけですが、市街地、住宅地とか駅前の辺りですと、10メートルとかそのぐらいの深さの地下水位になっている。こちらも、表土層の直下に点を打つと。50メートルごとに点を打ったときに、その点がどのように動いているかといったものをイメージ化したものになります。大地に降った雨が地中にしみ込んで、おおむね谷側に流れている。比較的素直な挙動を示しているということが出来ます。例えばこの広沢の池のところでも、周囲に降った雨が、広沢の池とその谷に向かって流れていることが、モデル上は再現されました。

北朝霞駅周辺のエリアをとったものです。北朝霞駅、ここが東武線、こちらが浄水場になります。この青ではない、ちょっと白っぽいところというのは、都市的土地利用の部分で、地下水位が深い土地です。当然、雨水が浸透しませんので、地下水位が低くなってしまいます。そのときに周囲の水は、地下水位が低いところに向かって周囲から地下水が集まってくるという現象が、モデル上では再現されます。

次に、今回、湧水の水がどこから来ているのかの解析について、3か所の湧水で解析してみました。こちらは、あくまで暫定の結果です。

一つは、代官水、それから一つは、東圓寺のところの湧水。一つは、子の神氷川神社のところ。それぞれどのエリアから集まっているというスケール感をここでは見ていただければと思います。

それぞれ見ていきます。代官水は、こちらです。

こちらは、同じ谷に存在しているモデル上の湧水です。湧出すると思われる場所でも、実際には湧水は現在存在していないわけですが、モデル上では存在しておかしくないといった場所となります。これらのピクセルは、青いこの湧出していると思われる点の浸透起源を示したものになります。例えばこの代官水は、この辺りまで恐らく集められている。大体250とか300メートル離れた台地上の範囲から来ているのであろうと、モデル上は、再現されたということになります。したがって、この代官水の浸透域を守るということは、この辺りを想定するということに

なるかと思えます。

次に、東圓寺の不動の滝の湧水のところについては、同じ環境下で湧水と思われる場所がこの辺り。これらの浸透起源が、こちらになります。比較的コンパクトな範囲が、モデル上では再現されます。

次に、子の神氷川神社周辺についてです。こちらも、同じく崖線下のところに湧出するであろうと思われる部分が、モデル上では再現されます。この湧水起源につきましては、陸上自衛隊の敷地の奥まで示されています。

今後、この地下水のシミュレーションのモデルをいろんな検証データ、例えば井戸の水位を用いて検証し、かい離があればそれを修正していきながら、できるだけ現実に近づけていく作業を進める予定です。これはモデル上の話でして、実際にそれが存在するということではないということを中心に頭に置きながら、これを見ていく必要があるものですが、こういったものを再現することによって、どのエリアの土地が湧水を守るために大事なのかといったことが分かるのではないかなと考えております。

続きまして、資料3-1に記載の2番目、「ヒートアイランド現象の緩和パフォーマンス」について説明させていただきます。

スライドに示しますこちらの図は、ランドサットという人工衛星の熱赤外バンドを撮影した画像を利用し作成した地表面温度図になります。

推測された地表面温度の最高気温が36.5℃、最低は25.7℃になります。こちらの画像ですけれども、2023年7月27日と8月8日、2024年7月5日の3日間の画像をを採用しました。夏の日、雲が掛かっていないという条件でこの3日間を選定し、この三つの平均をとって、図を作成しました。これを見ますと、荒川河川敷や朝霞調整池がまとまった冷涼な空間であるとわかります。加えてこちらの新河岸川沿い、それから基地跡地が冷涼な領域を示している。一方で、こういった市街地では、ヒートアイランド現象が顕著に確認できる。また、黒目川沿いですとか、小規模な緑地においても、この黄色の領域が確認でき、小さい緑地であっても、都市を冷やす効果があるのではないかというのが、この地図から分かるかと思えます。

次に、先ほどのランドサットの地表面温度図とグリーンインフラマップを用いて、グリーンインフラマップの緑地の面積と、その表面の温度を説明する回帰式をつくりました。地表面温度が、草地ですとか樹林地や水面ですね、そういったものの面積に係数をかけると地表面温度が求められるというものです。回帰式は、推測地表面温度は「 $31.6 + (-0.4 \times \text{草地系の面積}) + (-1.93 \times \text{樹林地系の面積})$ 」というような式となり、こちらを使って、グリーンインフラマップから推測地表面温度を推測することを試みました。

この式からどういったことが言えるかといいますと、例えば樹林地が駐車場に置き換わると、その地域はどの程度温度が上がるのかというのを、おおむね推測することが、回帰式上言えるということです。例えば0.25ヘクタールの樹林地が都市系グリーンインフラタイプに置き換わると、1.5ヘクタールの範囲の平均地表面温度が約1℃上昇すると、回帰式から言えるということです。

次に、各分析軸ごとにこのようなマップを作ろうと考えています。これは、0から1まで点数を図面化したものになりまして、今回、ヒートアイランド現象の緩和の視点による評価、分析におきましては、先ほどの回帰式にて求めたこの地図から評価図を作ることといたしました。

今回のランドサット画像は、そこに緑地が存在しても熱いままであったり、どうしてもむらが生じてしまいます。大小さまざまな緑地の存在をできるだけ評価したいと考え、回帰式による地表面温度図を基に評価図を作成しました。

また、これをほかの評価軸と合わせて、緑地の総合評価というものに進めていきたいと考えております。

続きまして、資料3-1にある「3-a. 炭素固定パフォーマンス」について御説明いたします。

植物は、二酸化炭素を吸いまして、光合成によってデンプンを蓄え幹を太らせてます。この光合成によって生産されたデンプンですが、植物の体になっていきます。その総量を総生産量と呼びます。その総生産量のうち、植物も生きておりまして、呼吸をしております。そのときに、少し消費してしまいます。その残った部分を純生産量といいます。炭素固定は、その純生産量を計算し炭素量を求めていく方法を採用しています。炭素固定量の算定にはいろんな手法がございます。樹木1本1本の本数を数えて、その樹木1本当たりの炭素の固定の能力を掛け合わせて算定するという方法もあるのですが、今回は、使えるデータに限度がありましたので、緑地の面積からその純生産量を求めるという簡易的な方法を取らせていただきました。

要するに、こういった常緑広葉樹林、落葉広葉樹林の面積を求め、係数を掛けることにより、炭素固定量を算定できる簡潔な方法を取らせていただきました。

図の見方としては、この茶色の色が濃いところで炭素固定量が多い場所となります。白っぽいところが炭素固定量が少ない場所となります。

解析の結果、市全域では年間約3,000トンの炭素固定能力があるということが、この手法において把握できました。当然、植物の分布傾向と同じことがいえまして、炭素固定量が高いエリアは、常緑樹を含む斜面林ですとか基地跡地というところで確認でき、次いで、河川沿いの草原や農地系の土地利用において高い傾向が見られるということが言えます。

先ほどと同じように、0から1の得点化したパフォーマンスマップというものを作成しました。このような形となります。

続きまして、「3-b. 大気浄化量パフォーマンス」についてです。

こちらは、先ほどの炭素固定量の算定の方法と似た方法となります。先ほどは、純生産量を基に計算しましたが、大気浄化能力の算定においては、総生産量を基に計算する方法となります。総生産量に係数を乗じることにより二酸化窒素や二酸化硫黄の吸収速度を求めることができる簡便な方法を採用しています。

結果、年間で二酸化硫黄は0.63 t/y、二酸化窒素は9.44 t/yの浄化能力があるという形になります。

続きまして、「4. 地域生態系の保全パフォーマンス」についてです。生き物の評価というのは、実際、物差しがいろいろな種類がありまして、議論があり、完璧なものはないとも言われております。今回、入手できる資料でどういったことができるだろうと考えまして、今回この評価を実施いたしました。

生き物がある場所に住むためには、餌がとれ、巣作りや産卵などができる環境が必要です。生き物の種によって、必要な環境や生活の仕方は様々です。本評価では、この生き物に必要な環境や生活の仕方により、動植物をある程度グループ化して、それぞれのグループごとの利用状況を抽出する。そして、生き物が生息する環境の多様性を評価することとしましたというふうにまとめさせていただきました。

使いますのは、朝霞市で過去に行われた生き物調査の生き物リストとグリーンインフラマップ、この二つを使って評価しています。

まず、過去の調査で確認された生き物について、各々の生き物の生活史において利用する環境、グリーンインフラタイプを想定する、設定します。合わせて、過去に調査された生き物をレッドリスト種、注目種、同じような生態を持っているなどの理由によって設定された指標に分類することを二番目に行います。この二つを使いますと、グリーンインフラタイプごとの指標の数というものを計算上求めることができます。

この情報を地図に与えまして、評価メッシュごとに指標の多様度というのを計算すると、評価図ができるという流れとなっております。

今回お配りした、補足資料の1というのが、生物種の想定生息環境をまとめたものです。

こちらにつきましては、生物多様性市民懇談会の皆様に、内容の確認を依頼しているところがございます。

続きまして、補足資料の2です。生き物の指標分けについてです。

指標につきましては、補足資料の2のところで一覧をお配りしております。例えば、レッドリストの中の鳥類ですとか昆虫類とか、哺乳類であれば、モグラ類、鳥であれば、昆虫食なのか種子食なのか。キツキなのか水鳥なのか、トンボであれば、流水性なのか止水性なのか。池にいるのか川にいるのかとか。そのような視点からグループ分けしたものを指標としています。このような34の指標に対して、過去に朝霞市で確認された生き物の種類について対応関係を1を入れていくというものになります。例えばですね、アズマモグラは、哺乳類のモグラ類、1があります。例えばネズミのカヤネズミは、レッドリストとその他に1が入ります。このとき、一つの生物種が複数の指標に所属するものも登場します。こちらも専門的な知識が必要になるとリスト作りとなっております、生物多様性懇談会の皆様に、内容について御確認を依頼しているところでございます。

次に、グリーンインフラタイプ以外に生き物空間として豊かであると考えられる場所として、林縁というものがございます。林と草原の間の部分です。そこは、生き物がたくさんいるであろうと考えられます。そのほか、湧水が出る場所も考えられます。湧水地に関しては、例えば東京都心に近い朝霞において、自然度の高いところで生息する生き物が確認されることがあります。そういったものは、やはり湧水の存在が起因していると言えまして、こういった湧水の存在も、把握しておく必要があるということで、地図を作りました。

これらの情報を組み合わせることによって、グリーンインフラタイプと指標の対応関係を一覧表にすることができます。それぞれのグリーンインフラタイプごとに、指標のタイプもカウントすることができます。ここに指標の多様度とありますが、例えばこちらのグリーンインフラタイプの項目ごとに指標の数を計算して、これをまた地図に戻して評価単位ごとに指標の数を集計するという行為を行います。そうしますと、このような地図ができます。朝霞調整池のような湿地環境で得点が高い。それから、基地跡地の中の樹林、根岸台や宮戸といったような斜面林において得点が高い。それに準じて、農地とか河川敷の草原ですね、そういったものも準じて得点が高くなっているという評価となりました。

この内容につきましても、生物多様性懇談会の皆様が、日頃緑地の維持管理、保全に御尽力いただいておりますけれども、こういった内容について、妥当であるかについても引き続きコメントをいただいているところでございます。

またテーマが変わります。「5. 景観資源パフォーマンス」についてです。

本市の自然的景観につきましては、広い荒川河川敷ですとか、先ほどの黒目川といったようなお話もございました。それから、身近な農地ですとか、植栽地、様々なものがございます。これらの景観要素が、市民生活において様々な形で関わって、寄り添って存在しています。まちのイメージ形成ですとか、市民の地元意識の醸成、こういったものに大切な役割を担っていると考えられま

す。

この景観資源の評価では、市民が「豊かである」「魅力的である」と感じる景観要素を市民アンケート調査により抽出し、その回答頻度を基に評価することといたしました。

こちらに市民アンケート調査について示します。黒目川がだんとつで1位という評価で、次に、シンボルロードが評価されています。アンケートの回答については一部重複がありまして、シンボルロードといたり公園通りといたり、重複が回答の中にあるのですが、それを地図上で、重複するものも整理して集計したものがこちらでございます。

やはり、黒目川がだんとつで評価が高く、そのほか基地跡地ですとか、河川敷といったもの、それから農地、社寺仏閣といったようなものもございまして、そういったものを全て落とし込みながら評価したものがこちらでございます。こちらのほかの評価軸と合わせてパフォーマンスマップを作成いたしました。

最後に、「6. 農業活動空間パフォーマンス」についてです。本市の農地につきましては御存じのとおり、都市化の進展に伴って減少傾向にございます。特に、その中でも畑の減少が顕著です。この原因として考えられるのは、住宅地等への転用が進んでいることや農業従事者の高齢化、後継者不足も影響していると考えられます。

このグラフにつきましては、農業センサスのデータからですが、やはり農地が減少傾向であると。それから、「産業実態に係るアンケート調査」というものを朝霞市は実施しておりまして、こちらの中でもアンケート調査の結果、営農における課題がまとめられており、農業経営上の課題に、人材に関する課題が多い結果となりました。

農業活動空間の視点において、どこが評価するべきかといったところでは、耕作地がどこに存在するかといったところをシンプルに評価することといたしました。

地図化では、耕作農地を抽出するというのと、休耕農地ですね、そちらを抽出いたしました。こちらは、目視による抽出ですので、地目と一致しない部分があるということを御承知おきください。このときに、休耕農地をそのまま足し込んでいいのかという議論がございまして、耕作地への復帰の可能性を含めて、半分の面積をカウントとし、評価しており、このようなパフォーマンスマップを作成いたしました。朝霞市においては、この辺りで、この濃い紫の辺り、赤い辺りで農地が存在するというので、この辺りを保全の対象として、評価の対象として位置付けるとさせていただきます。

分析の内容につきまして、駆け足で説明させていただきました。残された分析項目を含めまして、総合評価を今後行っていきます。本日は、それぞれの機能軸においてどういう評価を行ったかといったところを途中経過として報告させていただきました。

以上となります。

○古賀会長

ありがとうございました。

資料3-1及び3-2について説明がありましたが、こちらにつきまして、グリーンインフラの多面的効用に係る解析を現時点進めていただいているものです。途中経過という話ですが、この時点で御不明点や、お聴きしたいことがあればお願いいたします。

大橋委員。

○大橋委員

ちょっと1点気になったというか。

この会議は緑の会議なのであれなんですけど、湧水のところで、都市計画で考えると湧水が出るころというのは、ゲリラ豪雨とかがあるとちょっと危険な地域というか、そうなるかと思うのですが、その辺のハザードマップ等との重ね合わせみたいな、そういうのは作成しないのかなと、ふと思った次第です。その御予定はどうでしょうか。

○事務局・株式会社地球スケッチ・山下氏

防災に関しても分析する予定です。まずは、最初から混ぜるのではなく、最初は一つ一つシンプルに評価していきたいと考えています。湧水保全の議論は重要と考えています。一方で、治水はどう考えるかも重要で、一つ一つの評価がある中で、そこには優先順位の議論もあります。来年以降の議論になるかと思うんですけども、それぞれの評価軸でどんな評価が出たかを見ながら、皆様と一緒に御議論していきたいと考えてございます。

○大橋委員

ありがとうございます。

○古賀会長

ほか、何かありますか。

よろしいですか。

田島委員。

○田島委員

グリーンインフラマップということ、今、プロジェクターで御説明いただきました。

私、そういう知識がないのであれですけども、恐らく現状分析の部分だと思うのですが、前回第2回の会議の参考資料ですね、グリーンインフラマップによる分析のイメージということで、「永続的に優先的に保存する必要がある樹林はどこか」「平常時流量を確保する地下水涵養域はどこか」「雨庭をまちづくりの視点からどのエリアに配置したらよいか」「子どもの遊び場の不足域はど

こか」「都市公園の再編はどこで必要か」と、こういったところがゴールビジョンというか、完成したイメージだと思うんですけども、タイムスケジュールというか、スケジュール的には、今は現状分析の段階だと思うんですけども、結論というのは、いつ頃そういう提言というか、出る予定なんでしょうか。

○事務局・株式会社地球スケッチ・山下氏

当初、工程計画で位置付けた流れから、遅くなっています。解析に想定以上の時間を要しているところが正直なところで、ここはお詫び申し上げます。

今、委員からの御質問にございました、具体的な施策の議論につきましては、次年度、課題の集約に基づきまして、具体的にどのような施策を当て込んだらいいかといったものは、次年度の最初の段階です、前半のところで検討するような流れかと思っておりますので、本日のところは、具体的な内容まで踏み込んでおりませんが、また会を進める中で御議論いただきたいと考えております。

○田島委員

合わせてちょっと、私だけが知らないことかもしれませんが、炭素固定ですね、固定したCO₂の量のことということで、私、調べましたら書いてあったんですが、総生産量、t/yですね、これはどう調べてもこの単位が出て来なかったのですが、ほかの単位はやっぱり、t/yというのがいろいろ調べたんですけども出てなくて、この単位というのは、恐らく年間のトン数だと思うのですが、これは正式な単位というかは、何でしょうか。すみません。私には分からないので。

○古賀会長

山下さん。

○事務局・株式会社地球スケッチ・山下氏

単位につきまして、「t」はトン、「y」はYear、1年当たりということですが、通常ですね、こういった書き方をしますが、なかなか見慣れない単位でございますので、誤解がないように、例えば資料において最初に登場するときに、「t」はトンであると。「y」はYearであるということを、文章の最初のところにとどめて、以下はこのように表現するといったような表現をとるなど、工夫したいと考えています。

○古賀会長

ありがとうございます。

ほか、よろしいですか。ほかに何か御質問、御意見ありましたらお願いします。

ちょっと私からの感想なんですけど、それぞれの個別の炭素固定量とか全てのマップが大分全部似てきているっていうのは、やっぱりおのずとそういう結果になるという予測はあったんですか。何か、全体的にそんな感じですよ。

山下さん。

○事務局・株式会社地球スケッチ・山下氏

一つ一つの軸をできるだけ客観的に先入観なく分析しておりますが、結果、似てくることはあると考えられます。そこに森がある場合、炭素の吸収も活発で、生物の多様な生息空間にも寄与するということで、およそそういうところにだんだん収れんしていく可能性は高いのかなと考えています。

○古賀会長

ということは、これを今の現時点でこれを解析するってことは、これを逆に今までの朝霞市の航空写真とかで緑地面積とかやったものをバックしていけば、これが減ったからここがだんだんこうなったとか、そういった解析もできるということになるわけですね。

○事務局・株式会社地球スケッチ・山下氏

もしその場所に森を残されたならば、今ある森が、なくなったならばこうなるといったことは、分析できると思います。

○古賀会長

逆に今度それを、こういったことが言えるから、今後は例えばここは大事にしていかないと駄目だよという根拠づけになるという話でよろしいんですね。

はい、分かりました。ありがとうございます。

堂本副会長。

○堂本副会長

直接的にこの評価じゃなくてですね、今日のアンケート、これを見ていると、やはり朝霞の森とか黒目川とかってというのは、市民も注目するし、このレベル段階では評価が高いと。でも、多分このメンバーで朝霞の森の中に入ったことがない人がいっぱいいると思うんですけど、そこは、やはりここを協議会で議論するのであれば、早々に1回、朝霞の森に入っただけですね、実感としてどうなのかとかですね、実際どうなのかというのは、やはり生の感覚でですね、こういう場でも議論してもらいたいなというふうに思いますし、黒目川は皆さん、地元の人ですからほとんど行っていると思うんですけど、黒目川に行ったことない人も、あそこの水で水遊びしたことがない人は行ってみたいとかですね、あと、朝霞調整池、評価は高いんですけど、市民の関心はえらい低いというのもありますので、じゃあ、朝霞調整池ってどういうところなのかっていうのをですね、やっぱり見ていただくということも、こういう室内の議論も必要ですけど、来年、本格的に議論する前にですね、1回ちゃんとフィールドに立ってやり取りできればなというふうに私は思いますので、是非、朝霞の基地跡地に入れてもらいたいなと思います。

○古賀会長

宇野主査。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

基地跡地については、担当課の方と、計画を策定するのにどうしてもというお話はしてみます。それと、会議の回数って、やはり限られてしまう部分があるんですけど、都市計画審議会なんかですと、勉強会みたいなものを開催して、同時に現地を見ていただいているという、堅苦しい感じではなくて率直な意見交換等をやっていますので、会議とは別にですね、現地を見て、ここが見てみたいとか言われるものがあれば、そこを見ていただいて、これから本当に課題の整理とか施策とか目標とかなってきますので、その前にそういったものもちょっと御相談させていただきなうらと思ひます。

○堂本副会長

よろしくお願ひします。

○古賀会長

ほかに何か御意見等ありますでしょうか。よろしいですか。

では、質問等ないようですので、引き続き解析等を進めていただければと思ひておひります。よろしくお願ひいたします。

続きまして、資料4、参考資料2及び3について、一括して説明をお願ひいたします。

宇野主査。

○事務局・宇野みどり公園課みどり公園係主査

資料4につきましては、A4のカラーのもので、第1回の会議のときをお示した工程をですね、現時点、大体こんな日程でやっているというものに更新したものをお配りしておひります。

一番下の欄のところ、緑化推進会議の位置付けがございまして、現在は3回目、12月の欄に3回目、本日「アンケート調査結果」と「現行計画実績整理」「GIの分析評価（経過報告）」という形になっておひらまして、右にずれて行っていただきますと、来年の2月ぐらひに「課題等」の本格的な計画の中核部に入っていく内容を御議論いただくというようない形になっています。

来年中にはですね、素案をまとめて市民とのパブリックコメントとか説明会を開催した後にですね、計画を策定していくという流れになりますので、その途中で、今言ひました勉強会もどこかで開催しながらですね、実りある計画にしていきたいというふうにおひらしております。

工程表につきましては、また変更等も出てくると思ひますので、その都度御提供させていただきますと思ひます。

それから参考資料の2、3につきましては、先ほどにもありました生物多様性市民懇談会の第2

回を実は昨日行っております。第3回目はまた来年2月頃というお話の中なのですが、議事録の要点記録をお配りしておりますので、参考に見ていただければと思います。

説明は、以上です。

○古賀会長

ありがとうございます。

資料4、参考資料2及び3について説明がありましたが、御不明点やお聴きしたいことなどありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、質問等ないようですので、最後に本日の議題審議について、全体を通して何か言い残したことが、ほかあれば、また挙手にてお願いしたいと思いますが。

堂本副会長。

○堂本副会長

配っていただければ。朝日新聞のちょっとコピーしたものなのですが、これをなぜ配っていただいたかという、私が所属している協会では毎年コンクールをやっているのですが、作文と絵画とポスター、第40回なんですけれど、そのうち小学生の知事賞が朝霞第一小学校の4年生なので、せっかくだから、こういう小学生がいるということで。この子は、学校にビオトープを作ってもらいたいという思いで書かれているのですが、参考までにお配りしていただきました。

以上です。

○古賀会長

ほか、何かあれば。

堂本副会長のように、ほかの話でも何でもよろしいので、あればすいません。

藤井委員。

○藤井委員

今の堂本副会長がお話された、この小学生の作文で書かれているような、みんなの森とか子供のきから親しめる場所というのが朝霞にもあるよということを知ってもらうというのは、すごくいいことだと思いますし、先ほども田島緑地、合流地点とかそういったところをやっぱり知らない方とかも多い場所というのを、先ほど会長がおっしゃっていた勉強会など、そういった形で広く知ってもらえると、関心持ってもらえると、ここはちょっと本当に大事にしていこうと思ってもらえるかなと思うので、そういった、ここでこの場所をみんなで観察会をしましょうというのを、広く広めていただけるようなことがあるといいなと思います。

○古賀会長

ありがとうございます。

ほかに、ないですか。

ないようですので、ほかに何か御意見等があれば、また質問票など事務局でお伝えいただければと思います。

先ほどありましたように、堂本副会長や藤井委員からもお話が挙がりましたように、この場だけではなく外に出るようなことがあってもいいのかなと思いますので、その辺の検討もよろしく願いいたします。

それでは、議題審議は、以上になります。

◎3 伝達事項 ワークショップ開催の予定

○古賀会長

次に次第の3、その他について、参考資料4も含めて説明をお願いします。

また、その他何か連絡事項等あれば、お願いいたします。

鈴木係長。

○事務局・鈴木みどり公園課みどり公園係長

それでは、先ほど冒頭にもお話したのですが、ワークショップの開催について簡単に御説明させていただきます。机上配付させていただきました、「新しい公園の使い方を一緒に考えよう！～（仮称）宮戸二丁目公園～」というのがございまして、今年度、公園整備をしております（仮称）宮戸二丁目公園と根岸台5丁目にあります、まぼりひがし公園が整備中でございます。同じく、根岸台5丁目にある、まぼりみなみ公園につきましては、次年度以降整備予定となっております。

令和4年、5年度で、どのような公園にしたいか、どういった公園が通いたくなるかということで、市民、町内会の方でワークショップを開催して、設計に反映させてきました。例えばなんですけれども、ボール遊びコートなどを設置予定になっておりまして、公園の使い方についてまた、来年の1月18日土曜日、2月8日土曜日ですけれども、午前午後、2月8日はその反対という形で開催予定ですので、興味がある方とか、お近くにお住いの方がいらっしゃったら、是非、お声掛けをしていただければと思います。

もう一つ、こちら「シンボルロードの魅力と課題から緑地管理を考える」、こちらのシンボルロードのワークショップになってございますけれども、日にちが1月26日、日曜日の10時からになってございます。市役所に集合して、実際にシンボルロードを見ていただくような形で、みどりの基本計画を策定するに当たってのワークショップの第1回目の位置付けにもなっておりますので、是非御参加の方、よろしく願いいたします。

なお、先ほど古賀会長からもお話がありましたが、第3回緑化推進会議に関する質問票をお配りいたしましたので、何かお気づきの点や資料修正等の御意見や御質問等がございましたら、質問票に記載しています送付先に提出期日までにお送りいただければと思います。

連絡事項等は、以上でございます。

○古賀会長

ありがとうございます。

本日の議事は、全て終了しました。

それでは、進行は事務局にお返しします。

◎4 閉会

○事務局・鈴木みどり公園課みどり公園係長

それでは、以上をもちまして令和6年度第3回朝霞市緑化推進会議を閉会いたします。

議事進行に御協力いただきまして、ありがとうございました。